

QR コード

QR コードを読み取ります。

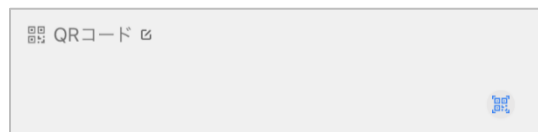
基本情報

カテゴリ	リーダー
利用できるプラン	Standard, Premium, Enterprise

アプリ

初期画面

アイコンをタップすると読み取りカメラが起動されます。



カメラ画面

自動・手動を切り替えることができます。

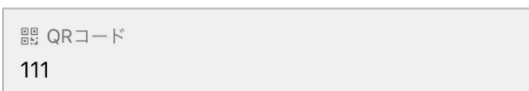
【自動】



【手動】



表示画面



編集画面

編集画面では画像に「×」アイコンが表示され、タップすると値を削除できます。

Platio Studio

基本プロパティ

(※)のプロパティについて詳しくはミニガイド「フィールドプロパティ概要」を参照してください。

【ミニガイド「フィールドプロパティ概要」URL】

https://plat.io/ja/wp-content/themes/platio/pdf/support/guide/platio_mguide_vol01.pdf

検索可能 (※)	データポケットの一覧シーンで、検索アイコンをタップするときに検索対象にするかどうかを指定します。
ソート可能 (※)	データポケットの一覧シーンで、ソートアイコンをタップしたときにソートするかどうかを指定します。
値の重複を許さない (※)	データポケットの入力・編集シーンで入力するときに、同じデータポケット内で既に入力された値のとの重複を許すかどうかを指定します。(副データポケットを含む)
必須 (※)	データポケットの入力シーンで入力するときに、入力を必須にするかどうかを指定します。
手動でスキャン	データポケットの入力・編集シーンで、読み取りカメラを起動した時に自動にするか手動にするかを指定します。 自動・手動はカメラ画面で切り替えることができます。 オン：手動 オフ：自動 (初期値)

高度なプロパティ

「高度なプロパティを表示」をクリックしたときに表示されます。表示した後、隠すには「高度なプロパティを隠す」をクリックします。

(※)のプロパティについて詳しくはミニガイド「フィールドプロパティ概要」を参照してください。

【ミニガイド「フィールドプロパティ概要」URL】

https://plat.io/ja/wp-content/themes/platio/pdf/support/guide/platio_mguide_vol01.pdf

カメラ	データポケットの入力・編集シーンで、起動するカメラを指定します。 前面：端末の前面のカメラを起動 背面：端末の背面のカメラを起動（初期値）
パターン(正規表現)	データポケットの入力シーンで入力する QR コードのパターンを正規表現で指定します。パターンを正規表現で指定することで、不要な部分や誤認識を回避できます。
説明 (※)	データポケットの入力・編集シーンで、フィールド名の下に表示する説明を記述します。
色 (※)	データポケットのレコード入力・表示・編集画面と一覧画面で、フィールドの表示文字の色を指定します。
背景色 (※)	データポケットのレコード入力・表示・編集画面と一覧画面で、フィールドの背景色を指定します。
条件付き表示 (※)	データポケットの入力・編集シーンで、フィールドを表示する条件を指定します。